

D10 湖山池の石かま漁

参照：湖山池研究所(鳥取市都市建設課)

目的：湖山池の自然を観察することで、湖山池の形成歴史，漁業・農業への利用，汽水湖の水質などについて学ぶ。

対象者：自然環境について学ぶ中学生，高校生，大学生，一般の人

位置：鳥取平野の西端，南と西は山が迫り，北は湖山砂丘から日本海，西は鳥取平野に面している。周囲約16kmの湖で，海面の高さが海面と同じで「汽水湖」の分類になる。

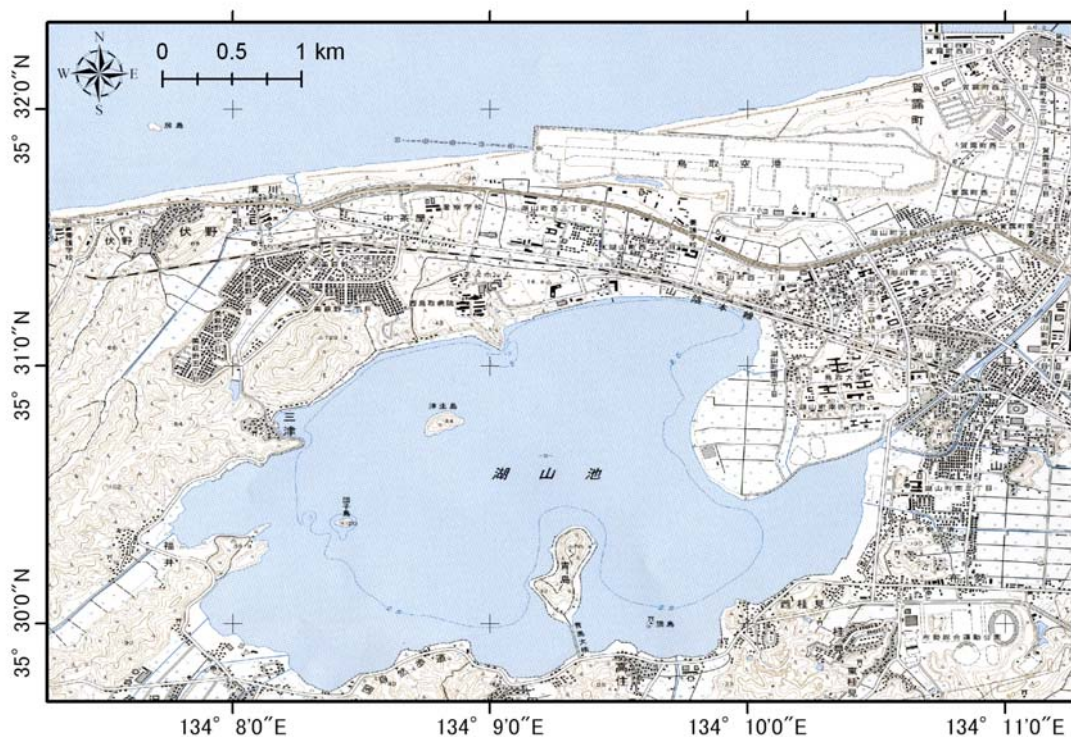


湖山池の風景 (Wikipedia より)

湖山池の大きさ： 周囲は16km，最大の幅は東西が4km，南北が2.4km
面積は約6.8平方kmで，水深は2～4mと浅く，最大水深は竜ヶ崎沖の6.5mである。日本の湖沼では32番目の大きさであり，汽水の海跡湖では17番目，池と名の付く湖沼では日本一である。

湖山池の生物： 夏期には，ヨシ，マコモ，エビモ，アオミドロなどの植物とタニシ，カラスガイ，モクズガニなどの底生動物，コイ，フナ，シラウオなどの魚類が生育し，冬はマガモ，コガモなどの水鳥やプランクトンも多い。

形成史： 鳥取平野が形成されてきた最終段階，古砂丘が形成されたことにより海と切り離され「古湖山池」ができ，縄文海進により日本海とつながり，その後，新砂丘が形成されていったことで砂丘の背後に取り残された潟湖（かたこ）です。日本海と湖山川から海水の流入がある。池には青島，猫島，津生島，団子島などがある。



石かま漁：湖山池固有の伝統漁法

湖岸から沖に向かって開いた扇型や馬蹄形に石を積み上げて、石釜を築きます。石釜の最下部には何本かの魚道があり、追い込んだ魚を捕獲する胴函（どうかん）に通じています。石釜に潜む魚を捕る作業を「石釜揚げ」と言い、1月下旬から2月の厳冬期の静かな天気の日、数人以上の勢子で数時間から10時間ほど、突き穴を突き棒で突き、魚を魚道から胴函へと追い込んで一網打尽にします。捕獲される魚は在来種のフナが主です。



石釜の形状（湖山研究所より）



石釜漁（湖山研究所より）

湖山八景と文学作品の湖山池：

「稲葉佳景 無駄安留記」に記述があります。そこでは「湖上八勝」として出てきます。

野崎落雁・矢山暮雪・三津帰帆・福井晩鏡・松原夜雨・高住夕照・布施晴嵐・湖山秋月
『因伯名勝和歌集』（県図書蔵）には湖山池を詠った詩が掲載されています。

夕日さす波路をかけて青島の 春めく空もさびしかりけり 中島宜門

鳩の海をうつす夕べのながめかな 小山の池のすめる月影 藩主 池田光仲

島崎藤村の『山陰土産』内にも、湖山池（湖山長者）について触れています。

志賀直哉の「暗夜行路」にも、湖山池の風景の描写と「湖山長者」の話が出てきます。

湖山長者の話：（湖山池研究所「湖山長者」より編集）

高草郡の湖山の里に、赤坂の長者と呼ばれるたいへん大金持ちの長者が住んでいました。この長者は、他のどの長者よりも、たくさんの田畑を持ち、宝物もどっさりと蓄えていました。

さて、長者のやしきでは、毎年のように田植えがあります。今年も、長者の村では、村人みんなで田植えを一日で終わらせるのがならわしです。ところが、田植えの最中に、子供を逆さに背負ったサルを見つけ、田植えをやめ、腰を伸ばしてそれを見ていた。

すると、いつもは日暮れまでに終わるはずの田植えが、お日様が西の空へしずみそうになっているというのに、まだ大分残っているではありませんか。

「これはたいへんだ」

長者は、いちばん大切にしている金の扇を持ち出し、沈みかけている太陽に向かい、扇を招きながらこういいました。

「太陽よ、いつと時の間戻ってくれ」

するとどうでしょう。西の山へ沈みかけていた太陽が、ふたたび上りはじめたではありませんか。こうして、無事に長者の田植えは、いつものように一日で終わることができました。ところが、あくる日、長者が自慢の田んぼに行ってみると、昨日植えたばかりの田んぼが一夜のうちに大きな池となり、まんまんの水をたたえているではありませんか。

人々は、長者がお日様を招いた罪で、大切な田んぼが池にかえられたとうわさするようになりました。その池が、ここ、湖山池なのです。

（西田良平;2010.02.15）

